

港北の消防

横浜市港北消防団 70 周年記念号

(第 58 号)



横浜市港北消防団

発刊にあたって



横浜市港北消防団
消防団長
飯田 孝彦

港北の消防 70 周年記念号発行にあたりご挨拶申し上げます。

港北消防団は、昭和 23 年 3 月 7 日に飯田助丸団長のもと 1 本部、5 分団、24 班、418 人体制にて設立されました。

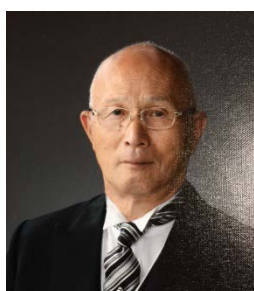
現在は、1 本部、8 分団、48 班、686 人（平成 30 年 3 月 1 日現在）ですから、港北区の発展とともに人員・資機材も充実、発展を続けてきたことになります。

これもひとえに地域の皆さまをはじめとした関係者のご理解・ご協力とともに、先輩諸兄の実績の積み重ねの結果と感謝申し上げます。

さて、10 年ひと昔と申しますが、この間に東日本大震災をはじめとした大きな災害が発生し、消防団を取り巻く環境は大きく変わりました。本誌では最近 10 年間の出来事を中心に掲載しましたのでご覧いただければ幸いです。

今後も私たち消防団は、港北区の安全・安心のため関係各機関と協力し、更なる充実と前進を続けて参ります。皆様のご支援・ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

発刊を祝して



横浜市港北消防団
相談役
伊藤 武夫

港北消防団が 70 周年にあたり記念誌を発刊されるます事、心よりお祝い申し上げます。そこで思い出されますのは、嶋村尚美元団長の 60 周年記念誌発行の提案でした。

早速、田辺泰孝元団長のお宅を訪問したところ、山ほど積まれた資料（団長会・議事録、八ミリ映像による出初式や器具置場の完成披露等）をワゴン車 1 台分お預かりしました。その資料の区分け作業には、八個分団が手分けをしてあたりました。こうして出来上がった 60 周年誌は、多少の校正不足もありましたが、多忙な中を多くの消防団幹部にご協力いただき、感謝の念を抱いたことを思い出します。

さて、私が父の退団に伴い入団したのは昭和 47 年 4 月でした。周囲は父と同年代の方ばかりでした。郷土愛護の精神から日夜区民をあらゆる災害から守る消防団ですが、ポンプ操法や資機材の取扱いをはじめとした活動だけではなく、人の道として大切なことも数多く教えていただきました。

その様な思いが走馬灯のよう蘇ります。有事の際、訓練以上の成果は得られません。隣接地の消防団との連携も視野に入れ、平常時からの意思疎通も重要です。

今後も、先人たちの実績を基に団員が一致団結し、港北区の安全・安心のために貢献していただきたいと思います。



『よこはま地震防災市民憲章』石碑 平成 29 年 3 月 11 日建立 港北防災支援の会

祝 辞



港北区長
横山 日出夫

港北消防団が発足 70 周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。昭和 23 年、自治体消防と同時に発足されて以来、急激な都市化によって災害リスクが高まる中、港北消防団の皆様は、区民や来街者の皆様の生命や財産を守るため、昼夜を問わず、幾多の火災、風水害、地震などに果敢に立ち向かい、その使命を立派に果たしてこられました。先人のご功績、団員の皆様のご努力、ご家族のご理解・ご協力に、心より敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

近年、東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨など、激甚災害が立て続けに発生しており、政令指定都市の全 175 区で最大の人口を擁する港北区においても、同様の災害の発生が危惧されています。

また、来年の「ラグビーワールドカップ 2019TM」、再来年の「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」を一つの契機として、横浜環状道路や相鉄東急直通線の整備、日吉・綱島間の次世代型開発プロジェクトなど、更なる発展を目指す街づくりが進められており、都市防災の重要性が増しています。

そこで、港北区では、地域防災力の強化に予算を重点配分するなど、防災を区の最優先課題の一つに位置づけ、区を挙げて取り組んでいます。昨年 3 月、庁舎前に消防団 0B の有志の皆様によって建立された「よこはま地震防災市民憲章」の石碑に籠められた「自助・共助」への思いを、港北消防団の皆様とともに具現化してまいります。70 周年は平成から新たな時代への節目でもありますが、変わりゆく港北区において、変わらない「郷土愛護の精神」をもってご活動されている港北消防団は、地域防災の要であり、港北区にとってかけがえのない存在です。

輝かしい 70 周年を契機といたしまして、港北消防団の益々のご発展と、団員の皆様のご健勝を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

記念誌発刊を祝して



港北消防署長
安江 直人

港北消防団が平成 30 年 3 月に 70 周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

発足から今日に至る長い歴史の中で使命感と郷土愛護の精神のもと地域防災の担い手として、港北区の安全・安心のためにご尽力いただいた先人の皆様のご功績に対し、改めて感謝を申し上げます。

東日本大震災の教訓をもとに改めて消防団の重要性が認識され、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が制定されました。

近年の少子高齢化、地域コミュニティの変容等、社会環境の変化を受け、また災害環境では発生が危惧される首都圏直下型地震をはじめ激甚化傾向にある自然災害への対応など、地域防災の要である消防団への期待はますます高まっています。こうした中、我々消防署も消防団の皆様とともに港北区の安全・安心のため、取り組んでまいります。

結びに、70 周年を迎えられました港北消防団のご発展と消防団員の皆様のご健勝を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

港北消防団本部

消防団長	飯田	孝彦
副団長	加藤	修
副団長	宮田	久男
副団長	山口	繁
部長	石川	賢治
部長	鈴木	基祥
部長	西山	孝雄
部長	長瀬	進
部長	内山	秀信
部長	草山	恵子



平成 21 年 4 月 辞令交付式



平成 24 年 4 月 辞令交付式



平成 28 年 4 月 辞令交付式



平成 24 年 10 月 福島県いわき市消防幹部行政視察研修来庁



平成 28 年 5 月 千葉県八街市消防団視察研修来庁



平成 29 年 8 月 港北消防団夏季訓練会

第一分団

第一分団本部

場所 港北区小机町 1711-1
港北消防署小机消防出張所

分団本部人数 分団長以下 7 人

分団長 羽鳥 勝実

副分団長 金子 太

副分団長 伊藤 一弘

部長 村田 庸明

部長 三田 敏幸

部長 長谷川俊一

部長 窪倉 敏



「港北消防団 70 周年によせて」

第一分団 分団長 羽鳥勝実

ある日、編集委員より「この 10 年間の第一分団のトピックを書いて下さい。」と依頼されましたが、さあ困った。普段、分団長会議に出席してその会議次第を、班長会議でつなぐその繰り返しで日々が過ぎてしまう状況ですから…。

第一分団として 10 年間で一番大きな出来事はなんといっても、3 年前に香川分団長が病死されたことが一番の衝撃です。我々にとって非常に大きな損失であり、まだ悲しみも癒えていません。

しかし、残った人間で多くの先輩たちの培われた 70 年を迎える港北消防団を次の世代に引き継いでいかなければなりません。

消防団は、これからの時代に合せて変化するにしても、組織としては続くことでしょう。今後も分団の役員さん、団員さんの協力を得て防火、防災減災に努めたいと思います。



平成 29 年 8 月 港北消防団夏季訓練会

「小机消防班」

第一分団第 3 班 田嶋重太郎

港北消防団第一分団は、小机城郷地区の 9 町会にて成り立っています。

1 班は岸根、2 班は鳥山、4 班は大堀、そして我々三班は東、愛宕、土井、堀崎、宿根、矢之根をまとめて「小机消防班」と呼んでいます。

主な活動範囲は、J R 小机駅を中心とした地域で、昔からの木造家屋が多く、細く入り組んだ道路が多い為、消火活動が大変困難になります。その為、有事に備えて普段から防火活動や消火栓の確認点検を心がけています。

先日、畑の近くにある消火栓を点検したところ、大量の土が入り込んでいる場所がありました。この消火栓が使えない事を考えるとゾッとすると共に、普段からの点検の大切さを再認識しました。

小机消防班の団員は会社員、自営業、農家、運送業等、また年齢も 20 代から 60 代まで様々な職業の方がいます。同じ地域でも知り合う事が無かった方々と仲良くなれて大変うれしく思います。

今年は小机消防班が 4 年に一度の夏季訓練会ポンプ操法の当番年です。当分団はこの 2 年入賞していますので、これに続ける様に一丸となって頑張りたいと思います。



平成 29 年 1 月
港北区消防出初式

第一分団

第1班

積載車保管場所 港北区岸根町 629-9
 受持区域 岸根町・新横浜一丁目
 班員数 班長以下 20人
 積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ2台

班長 岩田 正吾 班長以下 20人
 石橋 聡美 加藤 英美
 市川 渉 高橋 幸男
 伊藤 徹 角ヶ谷 芳昭
 岩崎 佐太郎 中川 聡史
 岩田 清 濱田 哲也
 岩田 秀規 平山 睦
 岩田 文夫 藤谷 恵一
 植田 健太 宮本 次郎
 岡田 宏 茂庭 秀和
 勝木 達也



第2班

積載車保管場所 港北区鳥山町 190-4
 受持区域 鳥山町
 積載車1台 ポンプ2台

班長 浅間 高広 班長以下 19人
 秋本 和男 蛭田 圭一
 飯塚 敏彦 蛭田 信秀
 伊藤 喜彦 蛭田 恭章
 今井 康友 村田 茂己
 岩田 喜市 八木下 佳三
 金子 一郎 八木下 孝司
 金子 貴弘 矢澤 淳
 土志田 浩 山口 春人
 土志田 勝 山本 吉秀



平成 27 年 分団激励巡視 (第 1 班器具置場)



平成 26 年 分団激励巡視 (第 2 班器具置場)

第一分団

第3班

積載車保管場所 港北区小机町 1521-4

受持区域 小机町東部

積載車1台 ポンプ2台



班長	石井 芳明	班長以下 25 人
	浅田 雄一	鈴木 秀和
	伊藤 雅之	武本 哲
	植木 嗣久	田嶋 重太郎
	海野 正男	塚原 純
	柿崎 治夫	堤 洋一
	加藤 学	鳥居 久章
	神本 竜夫	永田 祐二
	神本 豊	中渡 修三
	岸 直和	並木 哲雄
	北田 修	橋本 大輔
	小泉 将希	長谷川 文隆
	櫻井 久治	山下 憲一

第4班

積載車保管場所 港北区小机町 88-1

受持区域 小机町東部

積載車1台 ポンプ1台



班長	広田 信治	班長以下 13 人
	石井 勝美	高井 克己
	今嶋 将史	萩原 健一
	小澤 和三	長谷川 隆
	小沼 雅敬	広田 信治
	喜安 邦仁	藤井 英樹
	佐藤 祐文	山本 貴志



平成 24 年 分団激励巡視 (第3班器具置場)



平成 23 年 分団激励巡視 (第4班器具置場)

第二分団

第二分団本部

場所 港北区篠原町 1312-1
港北消防署篠原消防出張所

分団本部人数 分団長以下 7 人

分団長 田川 博幸

副分団長 廣井 徳榮

副分団長 砂田 俊彦

部長 新井 武仁

部長 峯岸 義孝

部長 岩崎 忠一

部長 宇野澤 一公



「港北消防団第二分団紹介」

第二分団 分団長 田川博幸

第二分団は、5班編成で計90人が現在の団員数である。消防団器具置場は6か所。可搬式小型ポンプ5台、小型ポンプ積載車5台、この3年間に配備されたエンジンカッター、可搬式ウィンチ、油圧ジャッキの他に、狭隘地区である篠原地区を担当している各班には40mmホース4本とガンタイプノズル2本、40mm用双口媒介1台そしてウォーターカーテンホース3本が配置されている。

団夏季訓練会、出初式等を除いた年間の訓練・イベントは、6月の第一日曜日に行われる分団夏季訓練会、管内3か所の小学校での地域防災拠点運営訓練、8か所の自治会及びマンションの防災訓練（スタンドパイプ式初期消火器具の取扱い指導、水消火器を使用する消火器取扱い指導、心肺蘇生法等の展示及び指導）への参加指導、小学校4年生社会科での消防団活動紹介授業（港北小学校、篠原小学校）、妙蓮寺ニコニコ商店街自営消防訓練指導等である。

また、篠原出張所との連携訓練（年2回、それぞれ平日夜間と日曜日昼間）、西町公園での連携訓練も出張所長の指導の下に実施している。消防団員の基礎的諸能力の確認の本格的な実施を迎えるにあたり、それぞれの確認項目の訓練も出張所長の指導をいただきながら実施している。

なお、上記した訓練・指導などは第八分団2班と共同で実施していることは言うまでもないことである。

「篠原西町公園での署団連携訓練」

第二分団 副分団長 廣井徳榮

篠原西町公園は港北区のはずれにある小さな公園である。ここに平成25年12月、新たに消防器具置場と特殊な消火栓を設置した消防活動拠点が完成した。ここでは毎年、消防隊と消防団のさまざまな連携訓練が行われている。

初年度は100mmホースの取り扱い方法、ウォーターカーテンホースを使用した延焼防止及び避難路確保訓練などを行った。

平成27年には、第一分団と神奈川消防団を交えた連携訓練を行った。西町公園の一部分は斜面になっており、上部から火災が発生したという想定である。ふもとの消火栓に第一分団と神奈川消防団の可搬式ポンプを配置、ホースを中継して火点近くの第二分団に中継しポンプを介して2線4口の消火活動訓練と、ふもとの2班が元ポンプとなり中腹の1班に中継、さらに先の篠原消防隊に中継する訓練を実施した。

平成29年の想定は、消防団が先着し住宅街にある消火栓から水利を取り延焼防止の消火活動、少し後に到着した篠原消防隊が車両のタンク水を使用した消火活動、そして消防団の別の班が篠原消防隊からふもとの消火栓まで特殊な金具を使用してホースを延長する訓練を行った。

このような訓練は、近い将来必ず来るであろう大災害において、私達消防団が自分達の町を守っていくうえで必要不可欠な訓練だと感じた。

第二分団

第1班

積載車保管場所 港北区菊名1丁目12-9

受持区域 菊名1丁目・2丁目・3丁目

積載車1台 ポンプ1台



班長	桜井 勝次	班長以下18人
	家久 浩介	関野 伸司
	石堂 智之	千田 昌
	伊藤 浩太郎	豊田 有希
	片倉 健一	星 久賢
	川端 國雄	丸山 弘明
	葛貫 克彦	八代 峰樹
	後藤 久世	山崎 通
	酒井 章充	渡辺 猛夫
	清水 正敏	

第2班

積載車保管場所 港北区富士塚2丁目29-39

受持区域 富士塚1丁目・2丁目

積載車1台 ポンプ1台



班長	戸田 進	班長以下18人
	内田 甫	武田 翔
	浦野 秀和	長井 潔
	加藤 智彦	林 俊雄
	加藤 直行	福田 晴彦
	小林 伸治	望月 昌秀
	小林 正之	森田 育宏
	志村 知英	山田 大輔
	鈴木 智史	吉川 郷生
	高橋 洋	

第3班

積載車保管場所 港北区篠原東3丁目1770-56

受持区域 篠原東1丁目・2丁目・3丁目

積載車1台 ポンプ1台



班長	山本 基博	班長以下14人
	伊東 厚彦	野田 勝雄
	伊礼 一二三	蒔野 秀治
	加藤 孝雄	水野 憲明
	児島 俊夫	峯岸 和宏
	佐藤 敏文	横瀬 弘英
	関口 浩史	渡邊 修
	高瀬 大輔	

第二分団

第4班

積載車保管場所 港北区篠原町 1069-1

受持区域 篠原町・篠原西町・新横浜2丁目

積載車1台 ポンプ1台



班長	金子 哲男	班長以下 16 人
	青木 健	菅原 武彦
	赤間 和重	須山 勤
	有泉 賢一	瀧田 健久
	石川 修	根本 明憲
	石川 吉浩	古屋 功
	片山 真治	堀川 直次
	川上 富雄	和田 芳幸
	岸 高志	

第5班

積載車保管場所 港北区仲手原2丁目 22-19

受持区域 仲手原1丁目・2丁目・篠原台町

積載車1台 ポンプ1台



班長	玉川 真	班長以下 17 人
	赤坂 一	久保寺 祐司
	石川 清	小山 隆三
	石田 猛郎	坂田 正弘
	臼井 勇一	坂田 勇太
	小川 康雄	鈴木 邦彦
	影浦 能章	關原 準以
	菊地 秀行	中島 昭
	久保寺 毅	中道 尚志

「ウォーターカーテンホース、40mmホースとガンタイプノズルの導入と応用」 第二分団第1班 豊田有希

ウォーターカーテンホースとは全長 20m のホースに 45cm 間隔で穴が空いており、圧力をかけて通水することで水のカーテンが形成されるものである。平成 24 年の地震被害想定の見直しに伴い、木造密集地域における延焼拡大防止及び避難路確保を目的に計 36 本が配備されている。水幕の最大高は 10m にも達するため、炎上区画の風下に同ホースを敷設する事により延焼防止に加え、住民の避難や消防隊等の活動動線が確保できるという算段である。水幕を継続的に維持するために消防隊とは別に十分な水利が必要となり、敷設については慎重な判断が求められるが、大規模火災等においては非常に実践的な装備と言えるだろう。

40mm ホース及びガンタイプノズルは、消防団充実強化法が施行されたことに伴い、延焼拡大予想地域を管轄する市内消防団 11 団に対して配備され、現在港北消防団においては第二分団 1 班から 5 班及び第六分団 4 班で運用されている。従来のホース等と較べて軽量で機動力に優れることから、より少人数で迅速に活動することが可能である一方、取回しが容易な反面、耐屈曲性、耐磨耗性に劣ることから実運用にあたり取扱いに習熟が必要な事などが課題である。

いずれの装備も市内各団に先駆けて導入され、その実績をもとに展開が進んでいるものである。消防団がいざという時に、その役割を最大限発揮できるべく、最新装備を活用するための十分な訓練を引き続き心がけたい。

第三分団

第三分団本部

場所 港北区大豆戸町 26-1

港北消防署

分団本部人数 分団長以下 7 人

分団長 齋藤 信之

副分団長 加藤 喜一

副分団長 吉田 亘

部長 北澤 利光

部長 萩野 和雄

部長 安井 伸

部長 小泉 守



「港北消防団第三分団の活動」

第三分団 分団長 齋藤信之

平成 28 年 4 月より第三分団長の任につきました齋藤でございます。第三分団は港北消防署の近隣地域に在住、在勤の団員 77 名で日々活動しております。

第三分団の特徴として分団夏季訓練会を実施するにあたり、事前準備に力を入れてやっております。訓練会自体は一時間足らずですが、午前中に入念な式典リハーサルや総合訓練の確認などを行い、午後に訓練会本番を行っています。

さて、消防団は地域に密着し災害発生時には地元の地の利を生かし住民の安心安全を守るという重要な役割がございます。業務として毎月の敷材の点検や習熟訓練、自治会などの催し物の支援などがございます。このような活動の中で団員間や消防署との連携を深め、いざというときに備えております

一方、消防団員には定年制がある以上、新入団員の確保は重要な課題だと考えています。「隣人と顔を合わせても挨拶すらしない」などと言われるほど人間関係が希薄になっている現在こそ、多くの住民が手を取り合い「顔なじみ」となる人が増えていくことが地域の力になるはずで。その小さな一步の積み重ねの努力こそが消防団組織の拡充と防災力を高めるきっかけとなるのではないのでしょうか。この歴史ある港北消防団第三分団が更に強い組織になるよう訓練に励み、輪を広げ地域の防災リーダーとなるよう努力していきたいと考えています。

「絆を大事に消防団活動の伝承」

第三分団第 2 班 班長 田口司

私たち消防団員は担当地域にて災害が発生しましたら、昼夜を問わず任務を遂行します。

当班は男女合計 18 名の団員が所属しており、職業も皆さん様々で地域に日中は居られない方も多くおられますが、団員の皆さん全員が郷土愛に溢れており、状況に応じて迅速に活動をして頂けるチームです。

日頃は消防団の活動だけでなく、町内会の行事のお手伝いや地域のイベントへの参加を皆で行い、年齢や性別に関係なく、日常生活では知り合う事がない多くの方々の仲間になれる地元活動へも積極的に参加しております。

当班では日頃より、いざという時に自分たちが地域の為に活動する為には、男女を問わず団員がともに責任を分担しながら支え合うという認識を確認しております。このような結束力を高める為のコミュニケーションのひとつとして、皆で積立をして旅行会を恒例行事として行っております。その際には全員で共有できるイベントを必ず盛り込み盛り上がっております。

これからも当班の皆さん共に郷土愛を大切に致し、そして団員同志の絆を信じ地域を守る消防団活動を遂行して参ります。



第三分団

第1班

積載車保管場所 港北区錦が丘4-1
受持区域 錦が丘
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台

班長 井桁 正博 班長以下4人
有吉 敏夫
芹澤 利和
吉岡 要



第2班

積載車保管場所 港北区大豆戸町239-2
受持区域 大豆戸町
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台

班長 田口 司 班長以下13人
伊東 孝幸 西田 正章
加藤 正一 二川 栄一
小竹 忍 宮岡 弘志
紺野 大助 村上 祐資
杉山 利明 山本 修裕
千葉 義則 吉田 三郎



第3班

積載車保管場所 港北区菊名7丁目5
受持区域 菊名3丁目(一部)~7丁目
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台

班長 福地 茂 班長以下9人
青木 輝夫
飯田 聡
工藤 正樹
齋藤 光男
高木 英二
西脇 寛
沼尾 元志
宮森 毅一



第三分団

第4班

積載車保管場所 港北区大倉山6丁目7-25
受持区域 大倉山1丁目～7丁目
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長	村田 俊治	班長以下 21 人
	秋本 和敏	加藤 真
	秋本 量一	加藤 信夫
	安藤 健雄	小井土 聡尚
	池谷 宏貴	坪野 和彦
	石原 準	豊澤 将
	稲垣 智之	橋爪 勝彦
	漆原 伸亮	長谷川 友康
	漆原 保	村田 嘉昭
	漆原 富美男	森 時彦
	漆原 誠	柳 真司

第5班

積載車保管場所 港北区師岡町 329-3
受持区域 師岡町
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長	鈴木 宣輝	班長以下 12 人
	相澤 邦男	鈴木 利彦
	池田 昌訓	松尾 寛一
	江藤 健一	横倉 利和
	江藤 道雄	横溝 博俊
	木村 芳友	吉川 富士夫
	越取 寛昭	

第6班

積載車保管場所 港北区篠原町 2597-1
受持区域 篠原北1丁目・2丁目、新横浜3丁目
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長	清水 康男	班長以下 12 人
	阿部 義浩	畑中 利幸
	岩崎 明文	原田 清
	植木 孝	水谷 聖史
	北村 徹	村田 正規
	齋藤 磨	大和 憲司
	出口 光良	

第四分団

第四分団本部

場所 港北区綱島西3丁目3-9
綱島消防出張所

分団本部人数 分団長以下7人

分団長 嶋村 公

副分団長 小嶋 清司

副分団長 黒川 亮一

部長 吉原 荘一郎

部長 高橋 正人

部長 遠藤 考

部長 鈴木 智



「70周年記念」(消防団に入団しての思い)

第四分団 分団長 嶋村 公

港北消防団70周年おめでとうございます。

私は2000年4月に第四分団第3班に入団しました。先輩同僚に支えて頂き、現在、第四分団長の重責を担い団員の皆さんと担当地区の消防活動をつかさどっています。

入団当時、父親が消防団長を務めていましたが、父に進められた事は一度もありませんでした。ある時、隣に住んでいる方が消防団を退職すると聞き、「後継者として入団したい。」と父に心願したのが始まりでした。

当時は、消防の基礎である礼式やホースの取り扱い、ポンプ操作など、先輩に教わりながら実戦に使える操作を学んだことを記憶しています。

基本となる操法大会に指揮者で参加し、班員との和を確認できた良い経験でした。その頃の操法は技術と正確さはもちろん、撤収が花形となっていましたので、いかに速くホースを巻くことが出来るか体力が勝負の分かれ目になっていました。団員同志仲間の声援がとても力になりました。

阪神大震災が起きた時から消防団への注目度が高くなってきたと感じます。地域で防災訓練が盛んに行われ消防団の知識や動作、そして組織的な行動力に地域の評価が増すことになり、大きな地震、火災、津波など自然災害にどう対処するかを地域と消防団が連携し訓練に励んでいます。

近年は、災害後の拠点訓練を地域では重要視していますが、我々も大地震に備えて、横浜市より支給される資機材の取り扱いを訓練し、いざという時に備えています。

日本で起きた自然災害で不幸な目にあわれた地域の皆様が沢山います。各地域の消防団が活躍している姿も報道されています。我々消防団は、地域に欠かせない組織となって期待されていると感じます。地域で伝統ある組織を後輩に伝えていかなければなりません。

港北区は人口が多く、災害時の被害は想像が付きませんが、最小限の被害におさえ人命を最優先にした活動ができるように団員それぞれが知識と行動力ある消防団員になるように努力を重ね、先輩方から受け継いだ伝統ある活動と地域に根付いた責任ある対応を団員が引き継ぎ、後世に残していきたいと思います。



平成29年4月 綱島さくらまつりにて

第四分団

第1班

積載車保管場所 港北区綱島台3-3

受持区域 綱島台・綱島上町・綱島西1丁目～6丁目

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長 垣中 祐二 班長以下20人

秋元 正廣 高橋 利和

浅子 憲利 竹生 正

安藤 時喜 竹生 壽夫

大谷 幸弘 竹生 匡寿

金田 輝之 程木 拓也

加村 芳一 松田 雅彦

國吉 淳 松永 祐司

黒川 晃一 森 淳一

篠原 収 森 晴美

鈴木 能一

第2班

積載車保管場所 港北区綱島東3-9 (綱島東公園内)

受持区域 綱島東1丁目～6丁目・綱島台の一部

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長 小泉 博之 班長以下19人

池谷 晃麻 永島 信昭

池谷 誠 中田 臣一

大久保 剛 中村 幸夫

荻村 征裕 西田 博

小島 浩二 吉原 邦雄

小嶋 武 吉原 重一

小嶋 始 吉原 忍

関田 栄夫 吉原 正剛

高谷 龍一 吉原 雅浩



平成26年5月 第四分団器具置き場巡視



平成28年1月 港北区消防出初式

第四分団

第3班

積載車保管場所 港北区樽町1—22—46
 受持区域 樽町1丁目～4丁目
 積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長	鈴木 勝博	班長以下 24 人
	和泉 誠	能登 建次
	荻野 芳明	別府 忠則
	片山 吉晴	星野 大
	木村 和正	松田 大力
	木村 大樹	山田 俊彦
	木村 寿久	横溝 修
	帰山 晃	横溝 清和
	鈴木 勇	横溝 憲治
	鈴木 悟志	横溝 忠明
	高安 忠雄	横溝 憲正
	中山 鋭一	横溝 政司
	縄嶋 民夫	

第4班

積載車保管場所 港北区大曾根台10
 受持区域 大曾根1丁目～3丁目・大曾根台
 積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ2台



班長	吉田 哲也	班長以下 16 人
	赤城 雄太	高橋 昭一
	板橋 伸一	永島 健作
	江田 和久	西村 豊一
	岡本 誠司	富川 正
	菊池 秀生	松岡 和典
	佐久間 薫	山崎 啓一
	島村 智明	横田 翔平
	杉本 孝男	



平成 29 年 1 月 港北区消防出初式



左 平成 29 年 8 月 港北消防団夏季訓練会

右 平成 26 年 8 月 港北消防団夏季訓練会



平成 29 年 ロープ結索訓練

第五分団

第五分団本部

場所 港北区箕輪町1-1-8
日吉消防出張所

分団本部人数 分団長以下7人

分団長 森 茂

副分団長 小嶋 健

副分団長 池田 剛

部長 林田 進

部長 田辺 恵通

部長 高久 政弘

部長 厚川 稔



「消防団員としての十年をふりかえる」

第五分団 分団長 森茂

さて十年ひと昔、機械被覆担当部長を拝命し2年目となるが、当時は旗手の任務も兼ねていた。引き継いだ分団旗は、収納箱や分団旗等がかなり傷んでいて補修をしながら使っていた。

その後教育担当部長となる。ポンプ操作や礼式等、団員の節度を指導するのが任務であるが通常点検では苦戦したものであった。訓練部長二年目に父が他界、これを機に会社を弟に譲り隠居、時間的にも余裕ができ、益々団活動に力が入る。

分団の夏季訓練会では、災害想定訓練の主役になる事が出来るので、気合を入れて臨む事が出来た。瞬間に四年が過ぎ、任期満了に伴い新年度より副分団長を拝命する。任務は分団長の補佐と分団全般の指導・機関紙「港北の消防」の編集委員等、思ったよりも忙しい。

任期半ばに団本部より横浜消防団広報推進協議会への参加依頼を受ける。初めて耳にする組織だがどうやら以前から有ったらしい。任務は横浜市消防団の広報全般、団員募集のリーフレットや団扇の作成、横浜消防出初式での広報や写真撮影・各種イベントへの参加等である。

会議は年に4・5回だが市内消防団20団の委員が意見を出し合い、熱のこもった会議となる。会議終了後は有志が割勘で居酒屋に繰り出し親睦を深める。

実は会議より此方のほうが各団の本音が聞けるし思わぬ情報も入ってくるので今後の団活動の参考になる。

さて副分団長任期も終え、新年度からは分団長を拝命するが、広報推進協議会には引き続き参加する。本来ならあと一年で定年だが、幹部は任期を務める事になる。団活動も残すところ二年半、悔いの無いように努めたい。



平成26年5月 第五分団
器具置場巡視



第五分団

第1班

積載車保管場所 港北区日吉5-11-17
受持区域 日吉五・六・七丁目
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長 川尻 鉄也	班長以下12人
厚川 稔	佐藤 剛
石川 直樹	中村 浩一郎
板垣 晴久	橋本 忍
加藤 克弥	松井 高城
酒井 一生	吉田 明弘
酒井 康成	

第2班

積載車保管場所 港北区箕輪町3-5-15
受持区域 箕輪町1・2・3丁目
積載車1台 ポンプ1台



班長 熊谷 陽幸	班長以下18人
有田 通紀	伊藤 喜彦
石井 進	秋本 和男
荏原 道友	八木下 佳三
菊池 昌宏	矢澤 淳
岸 克博	今井 康友
佐藤 泰則	土志田 勝
猿山 博人	山本 吉秀
莊山 敦	金子 貴弘
楡井 正直	
米花 博史	

第3班

積載車保管場所 港北区日吉本町2-41-2
受持区域 日吉本町4丁目～6丁目
積載車1台 ポンプ2台



班長 河原崎 浩秀	班長以下25人
市野 晃太郎	酒井 誠
内田 大恵	嶋村 俊之
岡村 成彦	田畑 英真
加藤 孝行	野間 圭策
川田 秀一	平岡 孝之
北河 慎一	横山 諭
久保寺 吉孝	
米ノ井 俊明	

第五分団

第4班

積載車保管場所 港北区下田町4-6-7

受持区域 下田町1丁目～6丁目

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ2台



班長	田邊 陵光	班長以下 16 人
	岩城 知一	新山 誠二
	上原 竜平	西山 満吉
	上村 真一	野崎 大輔
	荏原 光明	藤田 吉隆
	金子 勝美	森山 泰人
	河内 政幸	吉原 英次
	栗田 耕平	吉原 文雄
	塚原 昌彦	

第5班

積載車保管場所 港北区日吉2-31

受持区域 日吉1丁目～4丁目

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ2台



班長	片野 貴士	班長以下 14 人
	相原 鎮雄	加藤 丸治
	足立 樹	金井 光雄
	板垣 庄治	小山 耕史
	板垣 雅彦	佐藤 信哉
	市野 正己	武内 絢生
	卜部 一	永沼 和
	織茂 真	

第6班

積載車保管場所 港北区日吉本町1-8-4

受持区域 日吉本町1丁目～3丁目

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ2台



班長	松本 一樹	班長以下 12 人
	今村 昌人	鈴木 博
	小川 諒	田中 一弘
	軽部 浩一	田中 英宏
	木村 恭平	原田 賢二
	久保 創	渡邊 健太郎
	清水 健二	

第六分団

第六分団本部

場所 港北区綱島西3丁目3-9
高田消防出張所

分団本部人数 分団長以下7人

分団長 川下 省二

副分団長 相沢 一夫

副分団長 山本 忠夫

部長 芹田 賢治

部長 長瀬 一夫

部長 山田 高夫

部長 坂倉 龍彦



「連携訓練」

第六分団 分団長 川下省二

平成29年5月に、港北消防署と港北消防団による「遠距離送水資機材と大型簡易水槽の検証」が消防隊8隊、消防団7隊が参加して水再生センターで行われました。

地震が発生し消火栓が使用不能になった地域の消防隊に、可搬式ポンプ6台で集水媒介金具へ送水し、1キロメートル(100mmホース10本含む)のホースを延長し補水する訓練と、資機材の送水能力を計測し実戦における体制の確立を目的とした訓練です。

11月には、この検証結果を踏まえ、鶴見川河川敷に於いて消防団14隊80名が参加して訓練が行われました。現在、水道管の耐震化が進んでいますが、すべてが整備されるのはまだまだ先の事なので、自然水源を水利とする消火活動の確立が最重要課題です。

複数の災害が同時発生した場合、消防団の対応が困難になってしまうことも想定され、この事態を打破するためには地域の町内会、自治会等の防災組織の協力が不可欠です。

災害に対する認識を共有し、個々の地域の特性を考慮した有効な連携を模索していきたいと思えます。身近な組織と強固な連携体制を構築することが減災活動の第一歩と考えます。これからも消防隊、地域の町内会・自治会の皆様に信頼される第六分団であるべく精進してまいります。

「横浜市消防操法技術訓練会」

第六分団 部長 長瀬一夫

横浜市消防操法技術訓練会は、1年おきに行われ六分団が担当することになりました。毎年八月の夏季訓練会だけでも、担当班、選手、指導する分団本部、支援班の負担は大きなものです。市の大会の担当となれば、その負担は更に2ヶ月間続きます。

今回、担当する5班の選手は、全員がサラリーマンのため、毎週日曜日の午前中のみ訓練という厳しい状況でした。1月から訓練を開始し4月からは川渕所長の指導の下、本格的な練習が始まりました。

しかし、選手全員が揃うことが出来ない時もあり、技術もなかなか上達せず、時間だけが経過して行きました。8月6日の夏季訓練会では、想定外のミスがあったものの3位に入賞し、本命の10月14日の市の訓練会を迎えました。

当日は雨で肌寒く、訓練センターの大訓練場は、雨で光っていました。選手達はコースの確認や準備運動をして出番を待ちました。そして、六分団のポンプ操法が始まりましたが、この日も想定外の事態が発生しました。二番員がこの雨で滑り、転倒してしまったのです。幸い怪我もなく終了しましたが、結果は20チーム中13位でした。

自主練習から10ヶ月、一人の故障者も出さず、終了してホッとしています。この訓練会を通じて5班は勿論、六分団全体の絆が一層強くなったと感じています。

第六分団

第1班

積載車保管場所 港北区高田西 3-35-19
受持区域 高田西 1・2・4・5丁目
高田西 3丁目の一部
積載車・ポンプ 積載車 1台 ポンプ 1台



班長	田中 光年	班長以下 10人
	井上 進	中山 清志
	小此木 孝勇	箕輪 伸朗
	久保 睦夫	宮川 行平
	小島 義孝	宮田 宜生
	酒井 邦雄	

第2班

積載車保管場所 港北区高田西 2-425-80
受持区域 高田東 1～4丁目
高田西 3丁目の一部
積載車・ポンプ 積載車 1台 ポンプ 1台



班長	閏間 真	班長以下 13人
	青木 大士	高野 哲也
	阿蘇 誠	中村 隆志
	井上 悟	広瀬 義一
	河村 康史	前田 淳一
	熊谷 達矢	松浦 信次
	佐々木 徹也	森 博之

第3班

積載車保管場所 港北区新吉田町 120番地
受持区域 新吉田町 (御霊稲坂)
積載車・ポンプ 積載車 1台 ポンプ 2台



班長	加藤 悟志	班長以下 12人
	伊藤 祐市	宮田 直幸
	大貫 英樹	宮田 昌樹
	岡田 好博	宮田 昌之
	本多 一雄	宮田 光重
	宮田 恵明	宮田 義則
	宮田 茂	

第六分団

第4班

積載車保管場所 港北区新吉田町 3553 番地
受持区域 新吉田町（百日鬼蔵部）
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長	栗原 稔	班長以下 12 人
	石井 直行	田中 良美
	磯崎 翔太	辻田 里志
	笈川 勝之	豊田 勝美
	呂樂 健太	山本 成樹
	鈴木 和幸	吉田 健二
	田中 勝哉	

「きっかけは 父のうしろ姿」

第六分団第4班 豊田勝美

夜中、電話のベルが鳴り、遠くにサイレンも聞こえる。勝手口がせわしくなく2・3回開閉したのち…トラックの音～これは私がサラリーマンの頃、父が消防で出勤した時の記憶です。昼夜を問わず、時には風雨の中出かける姿も思い出されます。

17年前、29年間のサラリーマン生活に区切りをつけ就農してまだ日が浅かった私に入団の誘いがあったのは、父が退団して数年経過した頃でした。

入団した年はポンプ操法の当番年でした。厳しい訓練先輩方の真剣な表情に圧倒され、身の引き締まる思いを致しました。練習の合間に、礼式訓練やホース・資機材の取り扱い方法を教わりました。繰り返し指導を受けたお陰で、正しく身につけることができ自信につながりました。

そして現在、消防団活動に参加して感じたことは、日々緊張感をもって生活しているということです。また、携帯電話の普及により、何時・何処に居ても災害の情報が配信される昨今、熱い思いを胸に活動に取り組む団員の何と多いことか。定年まであと2年、退団したのちも団員として得た知識・経験を少しでも地域に還元させていただこうと思っています。

次代を担う団員一人ひとりが、先人たちにより培われた良き伝統を残しつつ、新しい試みにも挑戦していただきたいと願って止みません。

「小型ポンプ操法を振り返って」

第六分団第2班 班長 関間 真

私は、入団してから小型ポンプ操法の一番員として二度出場させていただきました。

一回目は区大会、市大会、二回目は出場したことのない団員でと考えていたのですが、諸事情により私が出場することとなりました。

5月から週2日、仕事を終えてから夜間練習、日曜日午前中の練習に取組みました。選手たちは、「出場するからには絶対に上位に入ろう！」と一生懸命取組みました。結果は、惜しくも2位…。最優秀には届かず少し悔しかったのですが、満足しております。

私が思うポンプ操法の訓練とは、技術の習得、向上はもちろんのこと、一つの目標に団員たちが練習に励み、切磋琢磨した『過程』が大事なことではないかと感じました。そういった訓練によって、班の団結、支援してくださる方々への感謝、消防団員としての意識の向上へとつながっているのではないかと思います。



平成29年9月 横浜市消防操法技術訓練会にて

第六分団

第5班

積載車保管場所 港北区綱島西4-5387
受持区域 新吉田町(蜂谷)
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長 松原 亮 班長以下14人
相澤 国治 田中 智宏
伊藤 良勝 辻 知洋
梅澤 達也 三宅 一也
大前 準 毛利 通広
神崎 昭一 本村 敏之
久原 政樹 山越 修一
城田 正司

第6班

積載車保管場所 港北区新吉田東6丁目26
受持区域 新吉田町(四ッ家)
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長 中尾 幹夫 班長以下8人
石田 勝
岩間 秀和
神田 英孝
鈴木 哲也
高橋 伸彰
八城 智
山本 英美

第7班

積載車保管場所 港北区新羽町2062-7
受持区域 新吉田町(貝塚)
積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長 手塚 進一 班長以下15人
加藤 保 富山 浩一
金子 晃 西山 浩一
齋藤 誠 萩生田 進
坂倉 充 長谷川 弘志
櫻井 利幸 細山 信彦
佐藤 茂明 八城 文雄
千喜良 剛 山本 雄二

第七分団

第七分団本部

場所 港北区新羽町 2357-2
新羽消防出張所

分団本部人数 分団長以下 7 人

分団長 米山 政勝

副分団長 中村 剛

副分団長 中山 勉

部長 秋本 孝

部長 大谷 徹夫

部長 久保田 政秋

部長 小山 洋



「大規模災害に備えて」

第七分団 分団長 米山政勝

港北消防団設立 70 周年おめでとう御座います。私は昭和 56 年入団し、今年で 36 年目を迎えました。

当時、父が消防団に在籍しており「お前も地域のために消防団活動をしてみないか」と言われ、地元消防団員の方々の誘いもあり、少し迷いがありましたが入団を決意しました。先輩団員の皆様からは暖かく受け入れて頂き、消防団員としての心構えから始まり礼式訓練消防資機材の取扱い等、消防団活動のイ・ロ・ハを御指導いただきました。

その頃の消防器具置場は粗末な建物で夏は暑く、冬は冷たい隙間風が入り込み、年末の特別警備の時などは、一つの石油ストーブに 10 人の団員が車座になって暖を取りながらの警備でした。また、現在の様に立派な積載車など無く、静まり返った真夜中の町内を 3 人一組となり拍子木を叩きながら「火の用心、マッチ一本火事の元」と呼びかけながら巡回した事を懐かしく思います。

今思えば入団 1 年目からポンプ操法の選手に起用して頂き、回を重ねるたびに指揮者・一番員・二番員・三番員と一通りの経験をさせて頂き、特に港北消防団の代表として横浜市操法大会に指揮者として出場出来た事は、私の大きな誇りであります。当時御指導頂いた出張所長、団員の皆様には心から感謝いたします。

さて、この 10 年間に顧みますと、地震・台風・火山活動が数多く発生しています。

平成 19 年の新潟中越沖地震をはじめ、東日本大震災御嶽山の大噴火・熊本地震・糸魚川市大規模火災・大型台風など、各地で大規模な自然災害による甚大な被害がありました。

皆様もご存知と思いますが、日本は国別にみて自然災害に対して最も脆弱な国土をもった国として上位にあるそうです。

その意味に於いて、大規模災害には消防署・消防団の連携が必須となります。いざ大災害が発生した時、個々の消防団での対応が出来ない事は先の例を見ても歴然であります。

そこで去る平成 29 年 11 月 19 日に鶴見川河川敷に於いて消防隊と消防団が一体となり、大地震による大規模火災を想定した消火訓練が行われました。鶴見川を水利とし、水利元ポンプ担当の消防団が大型簡易水槽に貯水し消防隊のポンプを使い百ミリホース五十本を連結延長し、一キロメートル先の簡易水槽に送水し、そこから放水担当の消防団が火点に向かって放水をするまさに消防隊と消防団が連携し遠距離送水による消火と延焼を防ぐ為の大規模な訓練でした。

消防出初式・夏季訓練会等でも大災害を想定した総合演技が繰り返されています。今後もこの様な訓練を積み重ね地域の皆様の安全安心を守る為消防資機材の取り扱い訓練による技術の向上と防火体制の充実と強化に努めていきたいと思っております。

第七分団

第1班

積載車保管場所 港北区新羽町 1120-5

受持区域 新羽町（南）

北新横浜 1丁目・2丁目

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長	小山 豊	班長以下9人
	加藤 博康	中村 英樹
	小山 文靖	中村 豊
	小山 正博	三橋 憲一郎
	中村 節男	望月 隆

第2班

積載車保管場所 港北区新羽町 857-1

受持区域 新羽町（中之久保）

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長	小山 正則	班長以下10人
	加賀谷 省二	長澤 英雄
	加藤 義和	西尾 一寛
	小山 政美	富士川 幸男
	小山 祐一	間野 知行
	津久井 明	

第3班

積載車保管場所 港北区新羽町 2857

受持区域 新羽町（大竹）

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台



班長	中山 政光	班長以下10人
	金子 祐太	西山 誠二郎
	高橋 勝浩	平等 真琴
	中山 澄夫	松村 聡見
	中山 尚道	吉成 協一

第七分団

第4班

積載車保管場所 港北区新羽町 2590-7

受持区域 新羽町（中央）

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台

班長 金澤 等 班長以下10人

飯村 侑介 中丸 洋平

大戸 隆文 中山 憲治

大森 昭男 村田 由起夫

酒川 健 米山 春男

土岐 頼延



第5班

積載車保管場所 港北区新羽町 3995-7

受持区域 新羽町（北新羽）

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台

班長 高田 修也 班長以下14人

秋元 朝光 中山 稔

秋元 正人 西山 裕一

石井 隆 藤田 徹

伊藤 哲夫 望月 宏行

今井 裕介 山内 俊一

金子 昇吾 吉田 豊

小久保 克哉



第6班

積載車保管場所 港北区新羽町 1868-4

受持区域 新羽町（自治会）

積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台

班長 吉田 薫 班長以下10人

宇治 正和 樋之口 直樹

内田 誉 藤浦 茂弘

菅原 伸之 松坂 正志

中條 悟



第七分団

第7班

積載車保管場所 港北区新羽町 960-3
 受持区域 新羽町 (町内会)
 積載車・ポンプ 積載車1台 ポンプ1台

班長 富樫 祐彰 班長以下 10 人
 河田 登 新井 利一
 荒川 淳良 大谷 里士
 細野 雄平 中川 卓哉
 山口 真司 八巻 正幸
 小林 省治



左上 平成 30 年 1 月 文化財保護デー (西方寺) 消防署・消防団合同訓練



上 平成 25 年 1 月 文化財保護デー (西方寺) 消防署・消防団合同訓練



平成 28 年 11 月 資機材取扱訓練

平成 30 年 1 月 第七分団・第八分団第 7 班資機材取扱訓練



平成 21 年 6 月 第七分団夏季訓練会



平成 29 年 10 月 交通局はまりんフェスタ

第八分団

第八分団本部

場所 港北区大豆戸町 26-1
港北消防署

分団本部人数 分団長以下 7人

分団長 加藤 康子

副分団長 木村 公子

副分団長 畑野 悦子

部長 平埜 あさ子

部長 西田 和美

部長 宮田 由枝

部長 永島 弘子



「第八分団」

第八分団 分団長 加藤康子

第八分団は、横浜市内で唯一の女性のみで構成される分団です。女性団員の役割は地域事情によっても異なりますが、比較的 안전한 後方支援活動が一般的でした。火災予防広報活動、避難誘導、区内の中学校普通救命講習及び上級救命講習等、応急手当指導員としての知識、技術の啓発に励んでまいりました。

特に、この10年は女性団員の数も増加し、活動のあり方も大きく変化してきました。資機材の取扱から、ポンプ操法など男性同様の実践的な訓練を経験して地域全体の防災力を高める担い手として期待されています。それにより、入団当初の女性らしい柔らかな活動服から男性同様の安全を期す活動服へと変更になりました。また、第八分団結成20年を迎える今年、横浜市女性消防団の制服が変わります。20年間愛用した、セーラーカラーの上衣に蝶ネクタイ、ベレー帽は他県へ行くと注目の的でしたが、男性同様のスーツで横浜カラーの明るいネクタイになります。この70周年記念誌は全員制服姿で記録に残すことにしました。

最後に、この10年での一番の思い出は『第20回全国女性操法大会』に『神奈川県代表』として出場したことです。2年間、計70回の訓練で得た、選手たちの努力と結束力はすごい。

私も指揮者として関わり、大変でしたが素晴らしい体験をさせて頂きました。結果は44隊中19位でしたが、4番員の佐藤隊員が優秀選手賞を獲得しました。「本当におめでとう！」

そして、支援して頂いた全団員の暖かい応援に改めて感謝申し上げます。

女性の底力、一つの目的に向かって一致団結出来るチームワークを大切に第八分団はこれからも頑張っております。



平成20年8月 第八分団 夏季訓練会



平成24年5月 第八分団 訓練礼式研修



平成26年9月 第八分団 夏季訓練会

第八分団

第1班



班長 穂本 とも子 班長以下9人
霧生 初代 榎 清美
蔵方 悦子 森屋 文子
杉原 みさ子 山口 真由美
高山 紀子 山本 知子



平成24年8月 港北消防団夏季訓練会

第2班



班長 廣井 恵子 班長以下12人
芦刈 ゆかり 高野 聡子
天野 芳子 富田 壽美代
荒木 美佐子 中坪 清子
池口 眞奈美 矢嶋 千比路
落合 和代 渡会 薫
小林 八千代



平成24年6月 第二分団夏季訓練会

第3班



班長 前島 美幸 班長以下15人
五十嵐 智美 長峰 千鶴
大重 加代子 野口 友子
雄谷 文代 舛川 夏奈子
高橋 郁子 三浦 みわ子
塚田 美幸 森藤 佳子
出口 秀子 安間 典子
寺嶋 則子 横田 久美子



平成29年7月 第三分団夏季訓練会

第八分団

第4班



班長 米田 奈美子 班長以下 11 人
磯部 美也子 保科 ふじ代
小口 夏子 八木 俊子
小野 信江 山口 英子
柴崎 美枝 山崎 美千子
野口 真子 吉原 芳江



平成 23 年 7 月 第四分団夏季訓練会

第5班



班長 莊山 かえで 班長以下 8 人
田中 麻鈴 細谷 サユリ
田畑 久乃 道川 宏美
藤森 美幸 渡辺 恵
星野 芳子



平成 28 年 1 月 港北区消防出初式

第6班



班長 本多 成美 班長以下 10 人
井手 知子 花輪 三紀子
井上 洋子 濱口 敦子
小笠原 あつ子 宮田 明恵
工藤 智恵子 由良 香織
栖関 朝子



平成 24 年 7 月 第六分団夏季訓練会

第八分団

第7班

班長 佐藤 光代 班長以下 11 人



秋元 しのぶ 小島 典子
荒木 明美 塩谷 誠子
伊藤 多麻実 高橋 晴美
小池 律子 萩原 裕美
國分 優子 原 澄江



平成 26 年 8 月 港北消防団夏季訓練会



平成 29 年 5 月 上級救命講習



左・上 平成 23 年 10 月

全国女性消防大会出場



平成 28 年 7 月 マリノスサックスマッチ



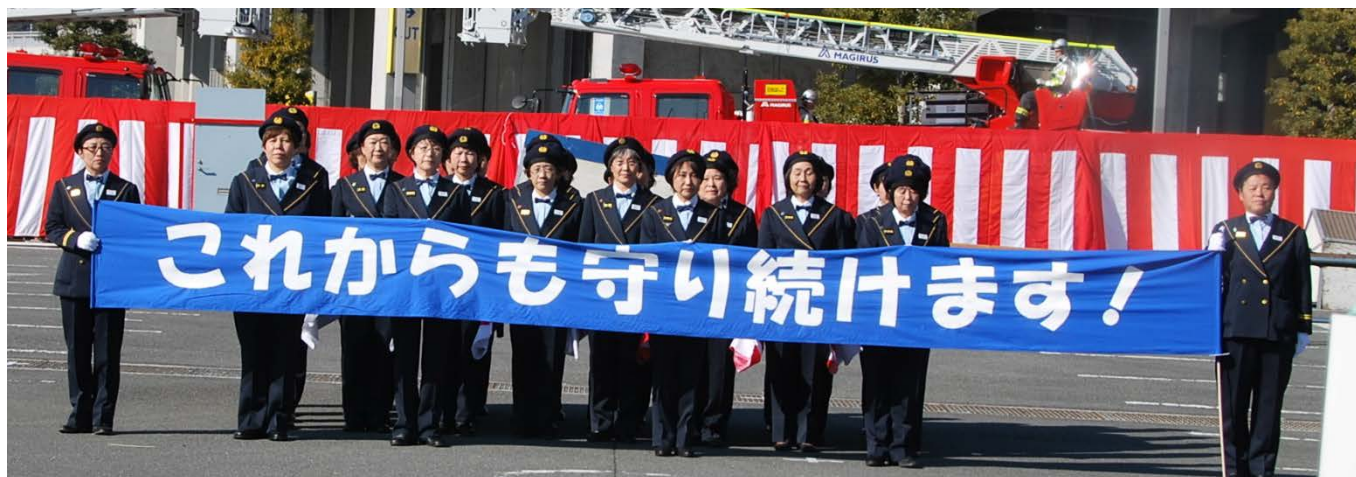
平成 29 年 1 月 NHK おはよう日本

「港北消防団員応援の店」取材



平成 25 年 11 月

消防団 120 周年・自治体消防 90 周年



平成 30 年 1 月 平成 30 年港北区消防出初式

区内災害年表（平成 20 年～）

平成 20 年(国内の大きな災害 6 月 14 日 岩手宮城内陸地震)

発生月	種別	場所	被害
1 月	火災	日吉 6 丁目	死者 1 名
2 月	火災	太尾町	建物 1 棟、死者 1 人
2 月	火災	日吉 6 丁目	建物 1 棟、負傷者 2 人
4 月	火災	日吉本町 4 丁目	建物 1 棟、死者 1 人
6 月	火災	日吉 6 丁目	建物 1 棟、負傷者 2 人
7 月	風水害	区内（大雨）	床上浸水 3 棟、床下浸水 21 棟
11 月	火災	鳥山町	建物 1 棟類焼 3 棟、負傷者 2 人



平成 20 年 3 月 60 周年記念式典



平成 20 年 8 月第八分団夏季訓練会



平成 21 年 1 月 文化財保護デー（西方寺）



平成 21 年 5 月 上級救命講習

平成 21 年(7 月 19 日～26 日 中国・九州豪雨)

発生月	種別	場所	被害
2 月	火災	下田 3 丁目	建物 1 棟、負傷者 1 人
5 月	火災	大豆戸町	建物 1 棟、死者 1 人
7 月	火災	高田西 1 丁目	建物 1 棟、死者 1 人
8 月	風水害	区内（暴風雨）	建物一部損壊 2 棟、その他 5 件
8 月	火災	地震（震度 4）	建物一部損壊 1 棟、負傷者 2 人
8 月	火災	綱島西 1 丁目	公共建物一部焼損、負傷者 3 人
10 月	風水害	区内	建物一部損壊 3 棟、他 4 か所
10 月	火災	綱島西 2 丁目	建物 140 m ² 、他 6 棟、死者 1 人、負傷者 2 人

平成 22 年(2 月 28 日 チリ中部沿岸を震源とする地震による津波)

発生月	種別	場所	被害
7 月	火災	新吉田東 8 丁目	建物約 180 m ² 、負傷者 1 人
7 月	火災	樽町 4 丁目	建物 1 棟、負傷者 2 人
11 月	火災	綱島西 2 丁目	建物 1 棟、負傷者 3 人
12 月	風水害	区内（集中豪雨）	土砂流出 1 か所、道路冠水 7 か所
12 月	火災	新羽町	住宅焼損、負傷者 3 人



平成 22 年 8 月 港北消防団夏季訓練会



平成 23 年 10 月 全国女性消防操法大会激励



平成 23 年 12 月 年末激励巡視

平成 23 年(3 月 11 日 東日本大震災、7 月 新潟・福島豪雨)

発生月	種別	場所	被害
1 月	火災	篠原台町	建物 1 棟、負傷者 1 人
2 月	火災	高田東 3 丁目	建物 1 棟約 90 m ² 、負傷者 1 人
3 月	火災	大倉山 2 丁目	建物 1 棟約 200 m ² 、他 5 棟類焼
8 月	風水害	区内（大雨）	建物被害 6 棟、他 4 か所
9 月	風水害	区内（台風 15 号）	人的被害 8 人、建物被害 10 棟 停電約 4 万戸、他 23 か所

平成 24 年(国内の大きな災害 5月 6日 北関東竜巻)

発生日	種別	場所	被害
2月	火災	仲手原1丁目	建物1棟約100㎡、類焼4棟、死者1人
4月	風水害	区内(強風)	人的被害5人、他3か所
6月	風水害	区内(台風4号)	人的被害2人、建物被害4棟、他21か所
9月	風水害	区内(台風17号)	建物被害4棟、他4か所
10月	火災	鳥山町	2階床面若干焼損、死者1人



平成 24 年 6 月 鶴見川水防合同訓練



平成 24 年 4 月 小机城址まつり



平成 24 年 5 月 風水害対策訓練



平成 24 年 12 月 夜間巡回



平成 25 年 11 月 消防団 120 周年・自治体消防 65 周年

平成 25 年(10月 15 日~16 日 台風 26 号)

発生日	種別	場所	被害
1月	火災	網島東5丁目	工場1棟483㎡、他類焼5棟
2月	火災	網島西5丁目	建物1棟約114㎡、負傷者1人
3月	火災	小机町	建物1棟約54㎡、負傷者2人
4月	風水害	区内(大雨)	建物被害2棟、他11か所
10月	風水害	区内(台風26号)	人的被害1人、建物被害6棟、他27か所

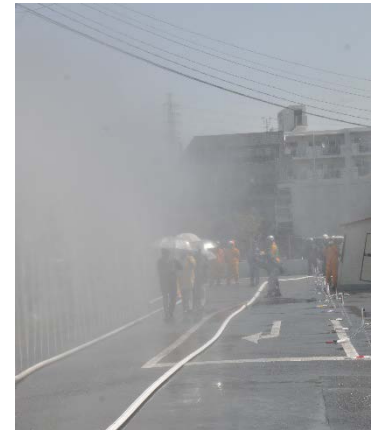


平成 25 年 9 月 機関科研修



上 平成 25 年 11 月 風水害対策訓練

右 平成 25 年 4 月 ウォーターカーテン訓練



平成 26 年(8月 20 日 広島市土石流、9月 27 日 御嶽山噴火)

発生日	種別	場所	被害
2月	風水害	区内(大雪)	建物被害3棟、道路被害1か所、他11か所
10月	風水害	区内(台風18号)	建物被害6棟、がけ崩れ9か所、他20か所
11月	火災	篠原町	新幹線車両、負傷者1人
9月	風水害	区内(台風17号)	建物被害4棟、他4か所



左 平成 26 年 6 月

初級幹部研修

右 平成 26 年 8 月

わくわく消防フェスタ



平成 26 年 10 月 遠距離送水訓練

平成 27 年(9 月 7 日～11 日 関東・東北豪雨)

発生月	種別	場所	被害
1 月	火災	日吉本町 2 丁目	住宅 1 棟 78 m ² 、他 2 棟、死者 1 人
1 月	火災	小机町	建物 1 棟約 830 m ² 焼損
5 月	火災	鳥山町	住宅 2 棟、他類焼 3 棟、死者 1 人
8 月	火災	日吉 5 丁目	壁面若干、負傷者 2 人
10 月	火災	日吉本町 1 丁目	住宅 120 m ² 焼損、死者 1 人



平成 27 年 9 月 港北消防団員協力の店



左
平成 27 年 3 月
新横浜帰宅困難者
対応訓練

右
平成 27 年
団員募集横断幕
(大豆戸、岸根)



平成 28 年(4 月 14 日～17 日 熊本地震、11 月 22 日～23 日 糸魚川市大規模火災)

発生月	種別	場所	被害
2 月	火災	大豆戸町	建物 1 棟約 36 m ² 、類焼 1 棟、負傷者 1 人
2 月	火災	大豆戸町	建物 1 棟約 37 m ² 、負傷者 1 人、死者 1 人
5 月	火災	菊名 2 丁目	建物 1 棟約 140 m ² 、類焼 2 棟、負傷者 2 人
11 月	火災	菊名 5 丁目	建物 1 棟 55 m ² 焼損、負傷者 5 人
12 月	火災	篠原町	建物 1 棟約 22 m ² 焼損、負傷者 2 人



平成 28 年 11 月 神奈川県女性合同研修

平成 28 年 1 月 横浜市消防出初式



平成 28 年 1 月 港北区消防出初式



平成 28 年 8 月 港北消防団夏季訓練会



平成 29 年(6 月 30 日～7 月 10 日 梅雨前線・台風 3 号)

発生月	種別	場所	被害
1 月	火災	高田東 3 丁目	建物 125 m ² 、類焼 3 棟、死者 2 人
3 月	火災	綱島西 2 丁目	死者 1 人
4 月	火災	小机町	建物 1 棟 48 m ² 、死者 1 人
9 月	火災	日吉 3 丁目	建物 1 棟 36 m ² 、死者 1 人
11 月	火災	日吉本町 1 丁目	建物 1 棟 18 m ² 、死者 1 人
11 月	火災	小机町	建物 1 棟約 136 m ² 焼損



平成 30 年 1 月 上級救命講習



平成 29 年 1 月 港北区消防出初式



平成 29 年 8 月 港北消防団夏季訓練会



平成 29 年 11 月 署・団合同遠距離送水訓練

叙勲受章者（平成 20 年から）

階 級	氏 名	勲 等	受章年月日
副団長	吉田 厚雄	瑞宝単光章	H21. 4. 29
分団長	横溝 一男	瑞宝単光章	H21. 11. 3
分団長	加藤 梅松	瑞宝単光章	H22. 4. 29
分団長	石川 藤吉	瑞宝単光章	H22. 11. 1
分団長	森 基	瑞宝単光章	H22. 11. 3
分団長	若林 正人	瑞宝単光章	H23. 2. 1
副団長	前川 幸一	瑞宝単光章	H23. 4. 29
副分団長	臼井 辰夫	瑞宝単光章	H23. 11. 3
分団長	山本 重昌	瑞宝単光章	H27. 11. 3
分団長	秋本 弘泰	瑞宝単光章	H28. 11. 3
消防団長	伊藤 武夫	瑞宝単光章	H29. 4. 29
分団長	金子 健一	瑞宝単光章	H29. 11. 3

褒章受章者（平成 20 年から）

階 級	氏 名	勲 等	受章年月日
副団長	久保寺孝雄	藍綬褒章	H23. 4. 29
分団長	吉原 松夫	藍綬褒章	H23. 11. 3
分団長	小泉 正	藍綬褒章	H26. 4. 29
分団長	山口 繁	藍綬褒章	H28. 4. 29
副団長	加藤 修	藍綬褒章	H29. 4. 29



平成 29 年配置の積載車



江戸時代～昭和初期の消防ポンプ（龍吐水）



昭和 20 年代の消防ポンプ



現在の可搬式ポンプ



平成 30 年 1 月 『港北の消防』第 19 期編集委員

編集後記

この度、『港北の消防』70 周年記念号（第 58 号）の発行にあたり、写真を主とした分かりやすい記録集を目指して編集委員会では検討を重ねてきました。

貴重な写真や記録を提供頂きました方々をはじめ、多くの方々からご協力をいただきました。また、編集委員・事務局各位の取り組みに対し深く感謝申し上げます。（編集委員長）

『港北の消防』第 19 期編集委員

- 編集顧問 加藤 修（本部）
- 編集委員長 長瀬 進（本部）
- 村田 庸明（第一分団）
- 砂田 俊彦（第二分団）
- 吉田 互（第三分団）
- 黒川 亮一（第四分団）
- 池田 剛（第五分団）
- 山本 忠夫（第六分団）
- 中山 勉（第七分団）
- 畑野 悦子（第八分団）

- 事務局 堤 康弘（庶務課長）
- 梅田 篤史（消防団担当課長）
- 柴田 大助（新羽出張所長）
- 大場 淳一（消防団係長）

